



## 5) CCSS 「共通カリキュラム」

NGA（全国知事会）で乾杯の挨拶をするオバマ大統領  
（任期 2009 – 2017 年）

CCSS（Common 共通、Core 中心、State 州、Standards 基準）の導入への働きかけはレーガン大統領（任期 1981 – 1989 年）時代からだった。NCLB 法は 2002 年に承認されたが、CCSS 作成まで対応ができずオバマ政権で実現した。レーガン政権の「危機に立つ国家」報告書では、この共通カリキュラムの中心にあった各教科の習熟度基準が「期待」・「推奨」しかされていなかった。レーガン大統領の副大統領だったブッシュ Sr. が政権を握る 1989 年から、連邦政府はこの「期待」の実現に働きだした。ブッシュ Sr. 大統領（任期 1989 年 1 月 20 日 – 1993 年 1 月 20 日）は就任直後に教育サミットを開催し、州知事を招集した。当サミットでは、国が根本的な教育目標の必要性という合意を得たが、教育目標を達成するための政策は、州が中心に取り組み、国は予算を提供することに限定した。当時は教育改善に緊急性が感じられていなかったため、この共通の習熟度基準の開発は、次のクリントン政権（任期 1993 年 1 月 20 日 – 2001 年 1 月 20 日）でもあまり進歩しなかった。

大きな動きがあったのはその次のブッシュ Jr. 政権（任期 2001 – 2009 年）だった。2001 年の同時多発テロの影響もあり、緊急性が高まり、ESEA 法改革ということで NCLB 法が承認された。その後、連邦政府は各州の教育改革に真っ向から取り組むようになり、特に、NCLB 法では、2014 年までにすべての児童・生徒の算数・数学と読解力が習熟度基準に達成できるような目標を掲げた。しかし、2014 年が近づくにつれ、目標達成が不可能であることが明らかになり、課題解決はオバマ政権に任された。オバマ政権は前任者の教訓から、緊迫感を持ち、全米州知事協会と州立学校役員会を招集し、問題解決にとりかかった。その結果、「成功するための基準」が発表され、全州で算数・数学と英語（実質上の国語）の基準が作られて、具体的に以下 2 点を主張した。

- ② 各州で教科書、教育課程、評価方法を国際スタンダードに合わせる。
- ② 各州で教員の採用、教員養成、教員研修の質を上げるための方針を改正する。

「成功するための基準」の発表直後に、全米州知事協会と州立学校役員会が教育の専門家を交えて、CCSS の作成に着手した。CCSS は、2011 年に、45 の州とワシントン DC で正式に採用された。